

# 2018 年

## 福岡自然農塾見学学習会のご案内



耕さず、草や虫を敵とせず、肥料農薬を必要としない……

数知れない生命たちの息づく、この美しい地球……。そこを舞台として時は巡り、季節も巡り、そして生命の営みは、繰り返されてきました。親から子へ、子から孫へ、そして、そのまた先の者達へと続く、個々の生命の営み……。その始まりと終わりは、実はこの宇宙の大いなる、始めなき、終わりなき営みの中にあり、一体です。そこから外れては生きられない、全ての生命です。私達人間の一人一人の生命も、そこから外れることなく生まれ、そして生き、そして死ぬ、その繰り返しです。そのことを自覚して、かけがえのない生の期間を私達は、是非に全うしなければなりません。しかも、足元の大地を、山や川、森や田畑、全ての生命の営みを、汚すことなく……損ねることなく……。

自然農は、耕さない大地に、たくさんの草々や虫達の、生命の営みを重ねて、自ずから豊かになっていきます。人の営みも、この生命の舞台に重なってゆく多くのいのちの一つとして、最善に全うしてゆきたいものです。

「耕さず、草や虫を敵とせず、肥料農薬を必要としない」この自然農はすべての生命の営みを永続可能とするものです。やりたいという思いさえあれば、小さな田畑から、どなたでもすぐ実践を始めることができます。

身の周りでおこる様々なできごとは悩ましく、一見解決不可能な難問もたくさんありますが、生命の世界は本来は、シンプルです。

おこる現象にとらわれず、生命の世界を見つめ、生命の世界が本当はどういうところで、今、どうなっているのか察知できれば、もはや答は明確なはずです。いたずらに我が生命を消耗することなく、まずは野に立ち、大いなる生命の世界と一体となって、本来の人としての営みを一つ一つ取り戻してゆけたらと思います。

福岡自然農塾は、この春で 27 年目に入りました。始まりから 15 年間は、自然農の師である川口由一氏をお招きして、深く深く学ぶことができました。時代性もあって、本当にたくさんの方々が、学んで行かれ、各地で営農や農的暮らしを始められています。現在は、全国に点在する自立した学びの場の一つとして、2か月に一回見学学習会を開き、見学地は、20 数年以上の実践の重なりを見ることができます。自然農の学びは、奥深く、尽きないものですが、ややもすると、多くの問いを重ねることに、自らの生命を、費やしがちです。

問いに終わることなく、人のあるべきあり様を悟り知って、その答えを生きることのできる私達にぜひに成長したいと思っています。

### 見学学習会の一日の流れ

9:00 集合・受付（松国学びの場）

午前中は松国学びの場の見学と畑の実習を行います。その後、一貴山へ移動して昼食をとっていただき、午後は、鏡山農園と一貴山学びの場の見学の後、田んぼの実習を行います。見学終了後は、言葉を交わしながらの、交流学習会となります。参加者の皆さんの質問等に応じ、また、自然農の世界について、深いところから視野を広げてあらゆるテーマで話し合いたいと考えております。

17:00 終了

参加費： 1,000 円

持ってくるもの：軍手、帽子、長靴、あればノコ鎌、弁当（12月は不要）、水筒

## 2018年 \* 年間学習内容

月・日	学 習 内 容	
4月15日(日)	・春の仕事	○学びの場、実践地の見学 ○お米の苗床作りと種降ろしの仕方 ○春夏野菜の種降ろし数種の仕方 ※お米の種籾を希望の方にお分けします。
6月10日(日)	・田植えを 中心に	○学びの場、実践地の見学 ○夏野菜の手の貸し方、支柱の立て方など ○一貴山の田んぼで田植えの実習、畦塗や水の管理の仕方
8月5日(日)	・夏の仕事	○学びの場、実践地の見学 ○田の草への応じ方、田の夏の管理について ○果菜類(ナス、トマト、ピーマン、キュウリなど)の手の貸し方 ○秋冬野菜の種降ろし
10月21日(日)	・秋の仕事	○学びの場、実践地の見学 ○稲刈り、稲架かけづくり及び稲架かけの仕方 ○麦の種降ろし ○畑の野菜への応じ方と手の貸し方
12月2日(日)	・実りを 手にする	○お米の脱穀、唐箕、調整(粳摺り、精米) 昔からの道具を使い手作業で行います。 ○精米したお米を自然農の野菜で作ったお味噌汁と共に その場で炊いていただきます。 (弁当不要。各自、箸、おわん2つ持参)
2019年 1月20日(日)	・特別企画 ※：場所未定	「それぞれの自然農、暮らしから学ぶ」 今回は、九州各地で自然農の学びの場を開催している人や、農的暮らしに入った方をお招きして、その暮らしぶりや現在の課題や展望などの話をうかがい、参加者の方々との交流学習会を考えています。より実践的なところで、深く学び合えたら嬉しいです。
2019年 2月17日(日)	・冬の仕事	○学びの場、実践地の見学 ○お米の苗床の準備(畑の作物の苗床作りにも応用できます。) ○新たに畑の畝を立てる、低くなった畝を立て直す。 ○エンドウの種おろし等

\* 毎回、種の交換コーナーを作りたいと思います。余分に採れた種を皆で持ち寄って分け合しましょう。



《見学学習会についての問い合わせ先》

鏡山 TEL 092-325-0745  
 村山 TEL 090-7927-2726  
 木下 TEL 092-323-6606

# 福岡自然農塾の各学びの場と農園

福岡自然農塾（代表：鏡山 悦子）とは、松国、一貴山、花畑の3ヶ所の学びの場と農園を総称しての名称です。見学学習会においては、主に松国と一貴山がその対象となります。個々に農園等を見学されたい方は、必ず前もってご連絡ください。



**松国自然農塾** ◆所在地 福岡県糸島市二丈松国 ◆代表 村山 直通[090-7927-2726]

現在、63名の方が一年間を通して、自然農のお米づくりと野菜づくりを学んでいます。

田んぼが約2.2反、畑約3.5反、果樹1反で一人当たりの広さはそれほど広くはありませんが、週末や休日を利用して福岡市内や近郊より通って楽しく学んでいます。毎月1回（第2日曜日）に指導と共同作業をやっています。

周囲の斜面や山林もお借りして果樹やシイタケの栽培も含み、総合的な学びを心がけています。

**一貴山自然農塾** ◆所在地 福岡県糸島市二丈一貴山 ◆代表 鏡山英二[092-325-0745]

一貴山は松国から、少し山手に入った、空気と水のきれいな中山間地の棚田地帯です。2002年に学びの場が開かれ、鏡山家を中心にして現在25名が学んでいます。広さは田と畑を合わせて約8反ほどあり、1人当たりの広さもかなり広いです。

自然農に目覚めるのは、農地を持たない都市生活者が多いですが、具体的に農的暮らしを始めるとなると、一貴山のような中山間地の放棄された棚田がいろいろな視点から最適だと思います。平地にはない厳しさもありますが、生きるための総合力を身に付けられたらと思っています。

**鏡山農園** ◆所在地 福岡県糸島市二丈一貴山 ◆代表 鏡山悦子[092-325-0745]

1992年より夫婦で自然農を学び始め、今年で27年目を迎えます。唐原と上の山での学びを経て、1996年より一貴山で自然農を営み始めました。1999年には家を建て、長年の夢であった農的暮らしが始まりました。現在は、田んぼ8畝、畑3反、果樹地1反を営んでいます。果物を加工したり、コンニャクや豆腐を作ったり、日々の暮らしに田畑の恵みを様々に利用する知恵は、昔は当然だったことを、今は一つ一つ学びながら自らに備え、次の世代にも伝えていくことが静かな喜びです。今年は、新しい試みとして、お醤油造りに挑戦します。家族単位でできる、お醤油造りは、長年の憧れでした。また、ニホンミツバチを飼い始めて7年目になります。感動がいっぱいです。

**木下農園** ◆所在地 福岡県糸島市加布里 ◆代表 木下 まり[092-323-6606]

自然農に切り替えて今年で24年目になりました。糸島半島の海沿いの温暖な地域にあります。田んぼは約0.8反、畑は約0.5反ほどあります。書道塾を営む夫と保育士の仕事に就く妻、それに子ども2人の合計4人の食を、ほぼまかなっている自給のための農園です。農園は、海に近い平野に位置していて、周囲は慣行農法の田に囲まれています。そのことで、特に問題は生じておりませんが、海がすぐそばにあるため、潮風の問題や、潮位によって田の水量の調節が難しいことや、近隣の田と水を入れる時期の調整など、ここなりの工夫も要します。

夫、恵里生さんの作る、自家製そら豆の豆板醬<sup>とうぼんじやん</sup>は絶品です。

**花畑自然農塾** ◆所在地 福岡市南区花畑3丁目 ◆代表 村山直通[090-7927-2726]

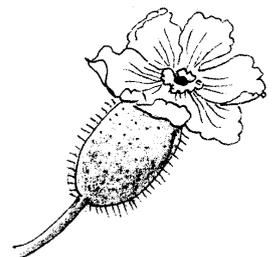
都市の中の自然農学びの場です。現在20名が約1反の畑で学んでいます。

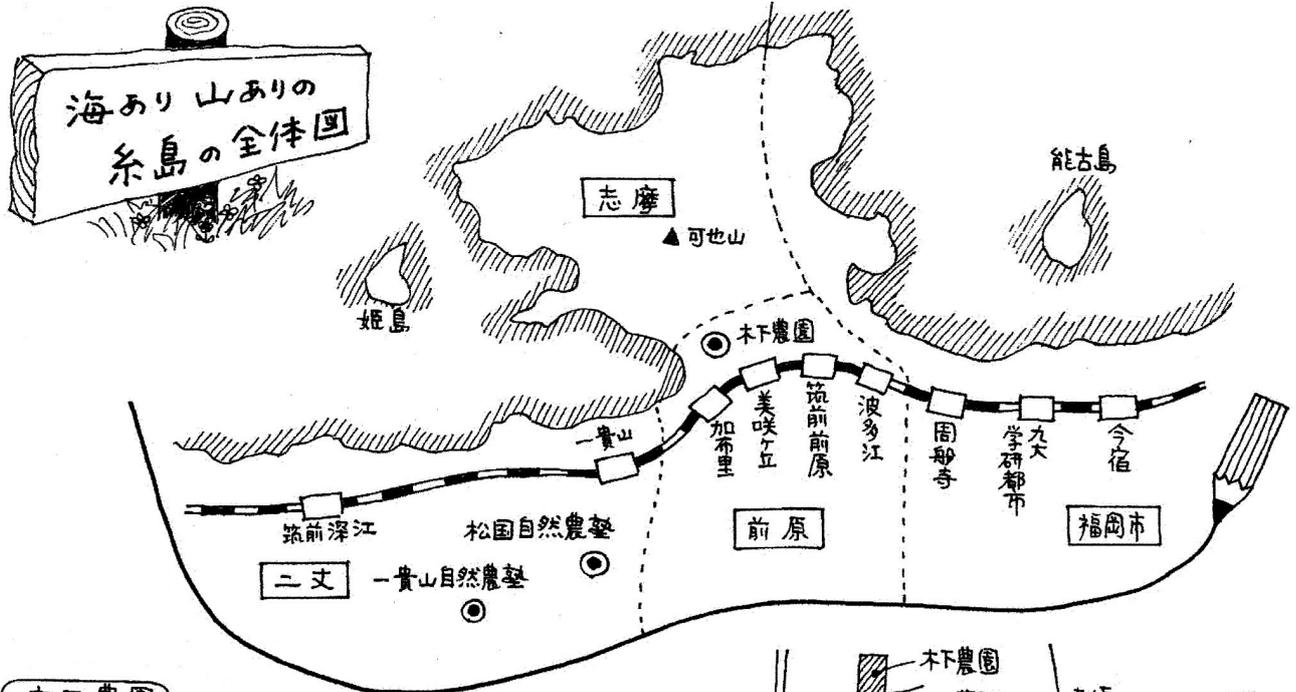
ここでは下記の日程で見学会を開催しています。

<花畑自然農塾見学会>2018年の予定

3/4(日)、5/6(日)、7/1(日)、9/2(日)、11/4(日)、2018年1/6(日)、3/3(日)

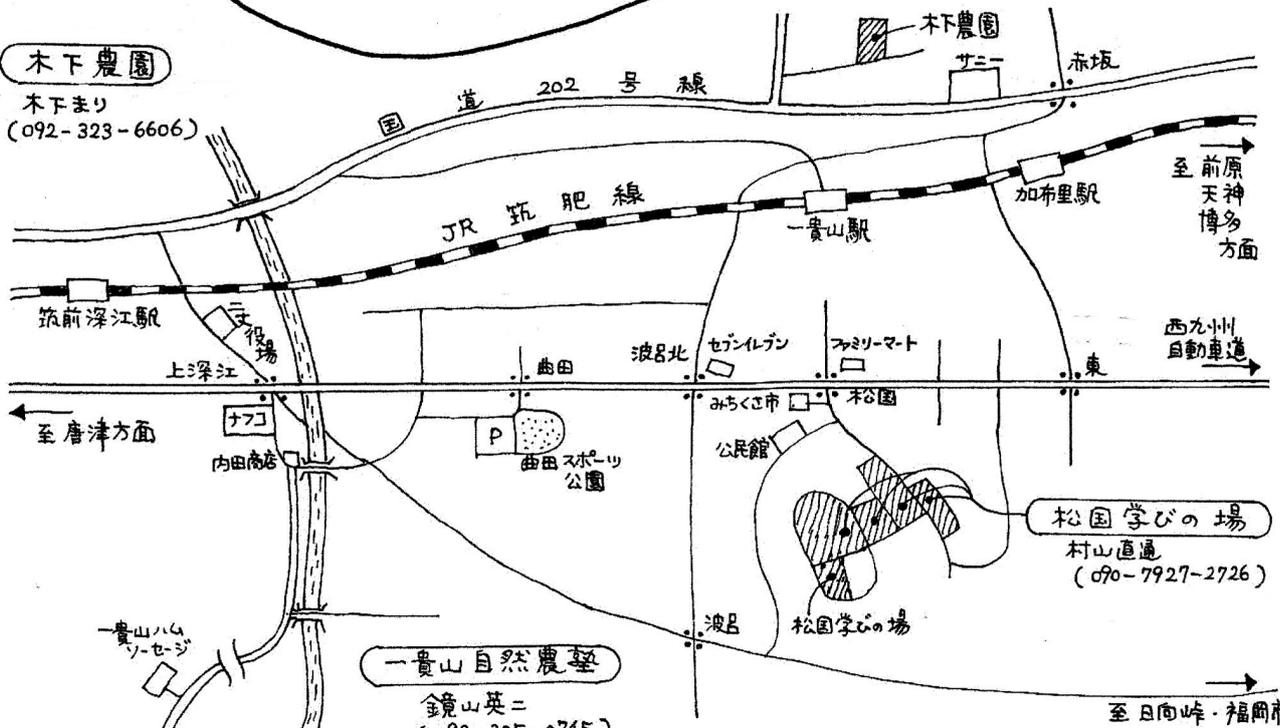
集合場所：福岡市南区花畑3丁目 花畑小学校正門付近 集合時間：午後1時30分 (参加費無料)





**木下農園**

木下まり  
(092-323-6606)



**一貴山自然農塾**

鏡山英二  
(092-325-0745)

**鏡山農園**

鏡山悦子  
(092-325-0745)

